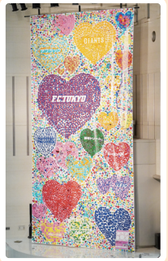
第９回　調布の福祉

調布パラアート展

市内の福祉作業所や特例子会社（*）などで制作されたアート作品を展示する企画です。最初の展示会は 2017 年にオリンピック・パラリンピック東京 2020 大会の開催に向けて芸術文化の発展につなげようと計画し、2018 年 1 月に初めて開催しました。
今年度は「パラハートちょうふ meets ART 2023」と題し、8 月 22 日から 8 月 27 日の 6 日間、調布市文化会館たづくり 2 階南ギャラリーにて開催されました。

＊特例子会社…障がい者雇用の促進や安定のために特別配慮をする子会社

「パラハートちょうふ meets ART 2023」展示会レポート



建物に入ってまず目に飛び込んできたのは大きな横断幕！これは**ビッグハートプロジェクト**といって、パラアート展の取り組みをより多くの方に知っていただくための企画だそうです。市内各所でたくさんのハートを集めました。FC 東京や読売巨人軍の選手のものもありました。横 5m、縦 10m に及ぶ大きなアート。約 11,800 個のハートが集まったそうです。

展示会場では思わず見入ってしまう印象的な作品が並びます。**「細かい作業が得意な方は、とても小さい鶴を折って作品にするなど、皆さんそれぞれの方法で自由に表現されています」**と話すのは今回アテンドいただいた調布市福祉作業所等連絡会の斎藤さん。これらの作品は普段の作業の中で描いたり作ったりしたものだそうです。今回は 95 作品展示されていました。**自由で個性豊か、枠にはまらないアート**に魅了された時間となりました。

▲ 技術指導や額装を調布美術研究所さんが担当されています

◀紅葉の葉は全て折り鶴でできていました

このパラアート展について、開始当初から関わっていらっしゃる社会福祉法人 調布を耕す会 しごと場大好きの施設長 亀田良一郎さんに取材しました。

パラアート展で大事にしていること

障碍のある人が作ったというだけで文化祭的に応募作品全部を並べるという事ではなく、質の高い作品を一般市民のみなさんに観覧いただいて障碍者の**イメージを変えていく**ような展示を目指したいと思っています。
また、**調布ならではの一味違う**作品展にすること、**観覧者がパワーチャージ**する展示会となること、展示物だけでなく**日頃の活動の様子も市民に伝え存在を知っていただく**ことを大事にしています。
また、質の追求と全員参加では目指す方向性が違ってきます。当初から調布市を含め参加事業所等参加者にその方向性に違いがあったので、回を重ねる中でそれらをはっきりさせて、同じ方向性を持って展示会を進化させようという意図から障碍者アートに精通した講師を招いて学習会を開き調布の方向性を醸成している最中です。

パラアートの魅力

彼らの作品が魅力的なのは、良い作品を描こう、評価を得ようという意識ではなく、**制作が楽しくて、既成概念に捉われず、見えたまま、感じたままを描く事に長けている**からではないかと密かに思っています。時に力強く自由で、時に鮮やかで清々しい、破天荒でもあり繊細でもあるそうした作品からエネルギーや温かみ、ユーモア、ワクワクを感じます。

これからの夢

- 街にアートが溢れ、**調布市全体を巻き込んだ**フェスティバルに進化させる
- この展示会から新たなアーティストやヒット商品等、**調布発の社会へアピール**する何かを生み出す
- **調布と言えば「パラアート」**というような調布の文化の象徴的なものにしたい
- この展示会がきっかけで**彼らを取り巻く仲間を増やしたい**

来場者アンケートでは、「力強い」「元気が出る」「いろいろな施設や企業で働く障がいのある方のことも知ることができてよかった」「次も見てみたい」といった声が届いているそうで、次に向けてまた広がっていく様子を私たちも追っていきたいと思います。（広報課）